

# 樺太土人アイヌ、ギリヤーク及ビオロッコ族ノ 生物化學的人種係數ニ就テ

附、樺太土人ニ對スル人種學的卑見

金澤醫科大學法醫學教室(主任古畑教授)

岸 孝 義

## 第一章 緒 言

一九一九年エル及ビハール・ヒルシュフェルド J. und H. Hirschfeld 兩氏ハ、當時世界戰爭ニ集リタル各國ノ軍隊ニ就キ、其ノ血液ヲ、同種血球凝集反應ニヨリテ四型ニ分類シ、A 類ト B 類トノ比率ヲ研究シタル結果、各人種間ニ異動アルコトヲ認め、世界人類ヲ、歐洲型、中間型、亞細亞、亞弗利加型ノ三種ニ區別シ、一九二二年ニハ匈牙利ノ、エフツエルツア、及ビオーウエスツェツキー F. Verzár und O. Weszenky 兩氏ハ、コノ生物學的人種比率ハ比較的正確ニ、其ノ祖先ヲ等シクスル人種間ニ於テ略一致シ、氣候、風土、習慣等ニヨリテ左右セラル、コトナキヲ發表シテ以來、各國ノ血清學者、病理學者、細菌學者等競フテ、其國ノ人種係數ニ就テ研究報告スルニ至リシガ、最近米國ノオツテンベルグ氏ハヒルシュフェルド氏ニヨル三種ノ分類ハ、血球ノ A 凝集原所有者ト B 凝集原所有者ノ比例ニヨルモノニシテ、歐洲地方ニ於テハコノ方法ニヨリテ、各人種ヲ區別シ得ルト雖モ、其後ノ研究ノ結果第一型血球(O 型)ノ所有者大部分ヲ占ムルガ如キ、亞米利加土人ノ如キモノニハ適用スベカラザルヲ論ジ、又單ニ血球ノ A 型 B 型トノ割合ニヨリテ人類ヲ分類スルハ不合理ナリト稱へ、次ノ如ク六型ニ分ツコトヲ提唱セリ。

## (一) 歐洲型 (European Type)

スウェーデン人、ノウルウェー人、イギリス人、フランス人、イタリア人、デンマルク人、ドイツ人、ドイツ系ユダヤ人、オーストリア人、ブルガリア人、セルビヤ人、ギリシヤ人

## (二) 中間型 (Intermediate Type)

アラビヤ人、トルコ人、ロシア人、スペイン系ユダヤ人

## (三) 湖南型 (Hunan Type)

日本人、南部支那人(湖南省)、ハンガリー人、ルーマニア系ユダヤ人

## (四) 印度滿洲型 (Indo-Manchurian Type)

朝鮮人、滿洲人、北部支那人(ペキン)、ジプシー(ハンガリーニ於ケル)印度人(ヒンズー)

## (五) 亞弗利加、南亞細亞型 (African South Asiatic Type)

黑人(セネガル) 米國黑人、マダカスカル人、スマトラ人、スマトラ支那人、ジャバ人、安南人

## (六) 太平洋亞米利加型 (Pacific American Type)

北米印度人、オーストラリヤ土人、アイスランド土人、フィリッピン土人

以上六型ノ各血液分類ノ割合、及ビ世界ノ分布ハ左ノ圖表ニヨリテ一見明カナルベシ。

Group (according to Jansky) Red cell characteristics	I O %	II A %	III B %	IV AB %	Racial Index A/B	No. of persons Tested.	Observers
<b>I. European Type:</b>							
Swedish	36.9	46.9	9.7	6.4	3.3	533	Hesser
Swedish	33.5	51.0	10.0	5.5	3.5	500	Lindberger
Nornegians	35.6	49.8	10.3	4.6	3.6	436	Jervell
English	46.4	43.4	7.2	3.0	4.5	500	Hirshfeld, L., and Hirschfeld, H.
French	43.2	42.6	11.2	3.0	3.2	500	Hirshfeld, L., and Hirschfeld, H.
Italian	47.2	38.0	11.0	3.8	2.8	500	Hirshfeld, L., and Hirschfeld, H.
Danish	47.3	36.7	12.0	4.0	2.5	150	Johansen
German (in Heiderberg)	35.3	47.6	12.2	4.6	3.1	500	Von Dungern and Hirschfeld.
Germans (in Heiderberg)	40.0	43.0	14.0	3.4	2.7	1,000	Suker
Germans (in Hungary)	40.8	43.5	12.6	3.1	2.9	476	Verzár and Weszeczky
Germans (in Kiel)	39.8	42.8	14.0	3.4	2.7	500	Steffan
Germans (in Leipzig)	34.5	41.5	16.5	7.5	2.0	1,000	Steffan
German Jews (Berlin)	42.1	41.1	11.9	4.7	2.7	230	Schiff and Ziegler
Austrians	42.0	40.0	10.0	8.0	2.6		Landsteiner, quoted from Hirschfeld
Bulgarians	38.0	41.8	15.6	4.6	2.6	500	Hirshfeld, L., and Hirschfeld, H.
Servians	38.2	41.6	16.2	4.0	2.5	500	Hirshfeld, L., and Hirschfeld, H.
Greeks	39.0	40.6	14.2	6.2	2.5	500	Hirshfeld, L., and Hirschfeld, H.
<b>II. Intermediate Type</b>							
Arabians	43.6	32.4	19.0	5.0	1.5	500	Hirshfeld, L., and Hirschfeld, H.
Turks	36.8	38.0	18.6	6.6	1.8	500	Hirshfeld, L., and Hirschfeld, H.
Russians	40.7	31.2	21.8	6.3	1.3	1,000	Hirshfeld, L., and Hirschfeld, H.
Spanish Jews	38.8	33.0	23.2	5.0	1.3	500	Hirshfeld, L., and Hirschfeld, H.
<b>III. Hunan Type</b>							
Japanese	26.8	40.9	18.4	13.9	1.69	363	Fukamachi, H.
South Chinese (province of Hunan)	31.8	38.8	19.4	9.8	1.66	1,296	Li Chi Pan.
Hungarians	31.0	38.0	18.8	12.2	1.6	1,500	Verzár, Weszeczky
Roumanian Jews	26.1	38.8	19.8	15.3	1.6	211	Manuila, quoted from Schiff and Ziegler
<b>IV. Indo-Manchurian Type</b>							
Koreans	28.0	32.0	26.5	12.7	1.16	363	Fukamachi, H.
Manchus	26.6	20.6	28.2	8.5	0.75	199	Fukamachi, H.
North Chinese (Peking)	30.0	26.0	34.0	10.0	0.82	1,000	Lui and Wang
Gypsies (in Hungary)	32.4	21.1	38.9	5.8	0.6	385	Verzár, Weszeczky
Hindus (Indians)	31.3	19.0	41.2	8.5	0.56	1,000	Hirshfeld, L., and Hirschfeld, H.

原 著 岸 樺太土人アイヌ、ギリヤーク及ピオロツコ族ノ生物化學的人種係數ニ就テ

Group (according to Jausky) Red cell characteristics	I O %	II A %	III B %	IV AB %	Racial Index A/B	No. of persons Tested.	Observers
<b>V. African South Asiatic Type</b>							
Negroes (Senegal)	43.2	22.6	29.0	5.0	0.8	500	Hirschfeld, L., and Hirschfeld, H.
Americanized Negroes	49.0	26.9	18.5	5.5	1.4	270	Lewis and Henderson.
Madagascans	43.5	26.2	23.7	4.5	1.09	400	Hirschfeld, L., and Hirschfeld, H.
Sumatrans	43.7	23.0	29.0	4.3	0.82	516	Bais and Verhoef
Sumatra Chinese	40.2	25.0	27.6	7.2	0.92	592	Bais and Verhoef.
Javans	39.9	25.7	29.0	5.4	0.9	1,346	Bais and Verhoef
Annamese	42.0	22.4	28.4	7.2	0.8	500	Hirschfeld, L. and Hirschfeld, H.
<b>VI. Pacific American Type</b>							
North American Indians	77.7	20.2	2.1	0	10.0	974	Coca and Diebert
Austrian aborigines	57.0	38.5	3.0	1.5	8.8	204	Tebbutt and Mc Connell.
Icelanders	55.6	32.1	9.6	2.6	3.3	800	Johansen.
Filipinos	64.7	14.7	19.6	1.0	0.76	204	Cabrera and Wade

北米合衆國ノ血液分布ノ狀ヲ示セバ次ノ如シ)

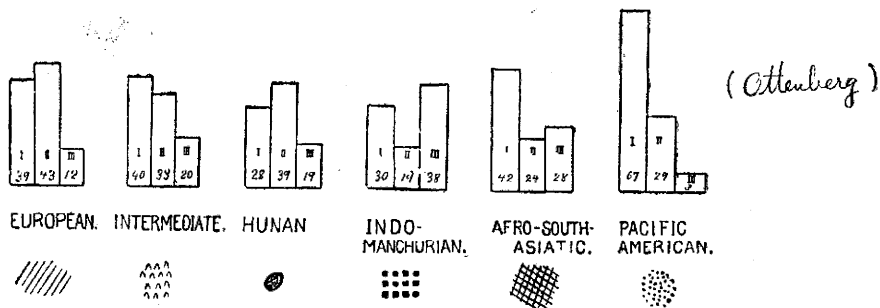
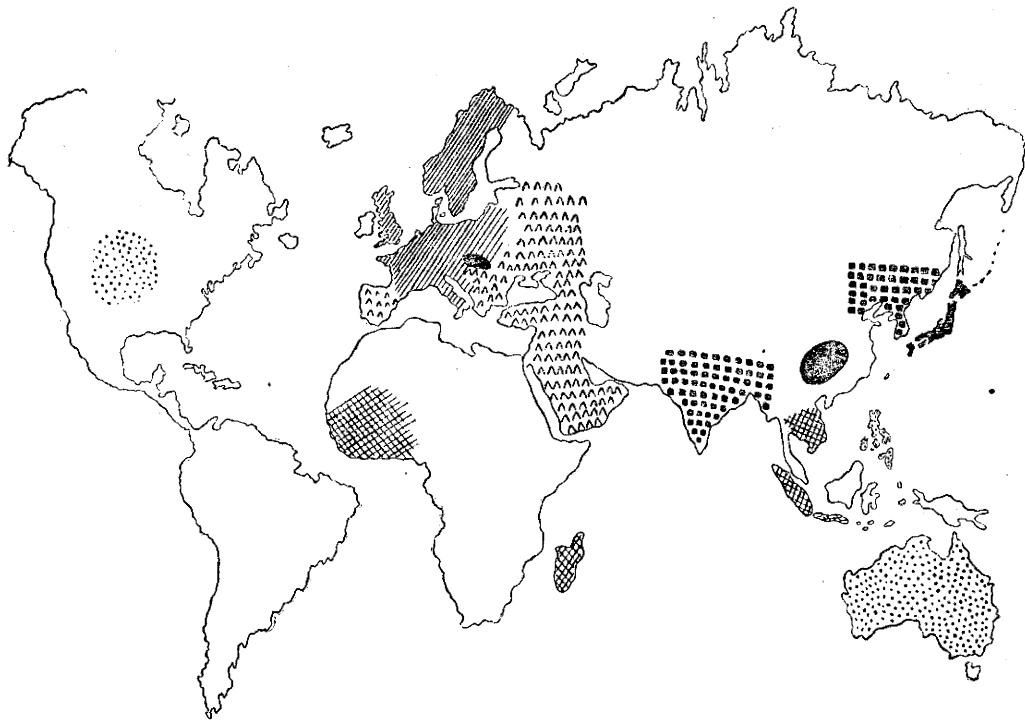
Group (according to Jausky) Red cell characteristics	I O %	II A %	III B %	IV AB %	Racial Index A/B	No. of persons Tested.	Observers
United states of America	43.0	40.0	7.0	10.0	2.94	?	Sanfort and Rochester.
"	46.2	43.4	8.3	3.1	4.0	1,000	Karsner.
"	35.4	53.6	6.2	4.8	5.3	1,222	Moffit, Klugh, Shepard.
"	45.0	40.0	10.0	5.0	3.5		Vincent.
" (Chicago)	47.0	34.0	10.0	9.0	2.26	76	Hekton.
" (New York)	44.0	42.0	12.0	2.0	3.14	286	Ottenberg

吾國ニ於テモ南ハ台灣、八重山列島、又本州各地、朝鮮、北ハ北海道マデノ、生物化學的人種系數ガ研究發表セラレ、余モ亦九月一、二ノ醫學雜誌ニ「同種血球凝集反應ニヨル人血液四型ノ分類及ビ北陸地方ノ人種系數ニ就テ」ナル小文ヲ掲ゲ、北陸地方ノ生物化學的人種系數ヲ調査發表シ置キタリ。

然ルニ吾北領樺太島ニハ、種々ナル人種住居スルニ係ラズ、未ダ何人モ研究ノ手ヲ觸レズ、尙調査ノ圈外ニ放置シアルノ感アリタルヲ以テ、余ハ今夏金澤醫科大學ノ命ニ依リ樺太島ニ出張シ、同地各人種ニ就テ同種血球凝集反應ニヨル血液検査ヲ施行シ、興味アル結果ヲ得タルガ故ニ其ノ成績ノ大略ヲコ、ニ報告スベシ。

第二章 土人ノ分布及ビ、實驗成績

樺太島ニハアイヌ、ギリヤーク、ツ



一八六一

ングース族等々占居シ、ツングースヲ分チテオロツコ、キレン、サンター等ノ種族ニ區分ス。サレドキレン、サンター等ハ至ツテ小數ニシテ全ク滅亡ニ近シト稱セラレ、吾領土即チ南樺太ニ比較的多數住居シオルハオロツコ、ギリヤーク、アイヌ等ニシテ、大正十四年七月樺太廳ノ調査ニヨレバ、アイヌハ一五一名、ギリヤーク七七名、オロツコ二一四名、キレン六名、サンター一名ナリトス。

ギリヤーク人及ビオロツコ人等ノ談及ビ彼等ト長ク生活ヲ共ニセル邦人等ノ話ニ依レバ、ツングース族ノ中ニ小分類トシテツングース種ナルモノアリト云フモ、樺太土人ノ分類ハ區々トシテ定カナラザル状態ニアリ。

要之樺太ニ於ケル住民ハ主トシテ、アイヌ、ギリヤーク、オロツコヨリナルモノニシテ、オロツコ族ハツンクス族ニ屬スルモノナラントハ、大體ニ於テ承認セラレ居ルガ如キモ、アイヌ、ギリヤークニ至リテハ其ノ如何ナル人種ニ屬スベキヤ未ダ分明セザルモノニシテ、アイヌ以外ニアイス族ナク、ギリヤーク以外ニギリヤークナシト稱セラレ、且ツ世界中之ニ匹敵スベキ種族ナク、年々其ノ人口ヲ減ジ遂ニ絶滅スルニ非ラザルヤ憂ヘラル、モノニシテ、今日此ノ種族ヲ研究スルニ非ラザレバ他日再ビ研究ノ機會ヲ失フニ至ルヤモ測リ難ク、コノ兩種族ノ研究ハ最モ興味アリ、又重要ナルモノト云ハザルベカラズ。

アイヌ族ハ現今北海道アイヌ、千島アイヌ、樺太アイヌノ三種アリ、北海道アイヌハ日本民族トノ接觸ニヨリテ混血ノ度甚ダシク、アイヌ中北海道アイヌハ其ノ純粹ノ度最モ低シト考ヘラレ、千島アイヌハ諸島ニ散在シテ検査上ノ不便アリ、全ク純粹ナルアイヌ族ノナキ現今ニ於テハ、比較的純粹ナリト信ゼラル、樺太アイヌニ就キテ研究スルハ最モ當ヲ得タルコト、信ズ。

樺太ニ於ケルアイヌノ分布ハ西海岸ニ在ルモノト、東海岸ニアルモノトアリ、西海岸ノアイヌ即チ知來、多蘭泊部落等ノアイヌハ先年一度北海道ニ移住セシメラレタル事アリテ、後再ビ樺太ニ歸リ來レルモノニシテ、樺太ニテハコレヲ復歸土人ト稱ス、故ヲ以テコノ土人ハ北海道アイヌトノ混血モ多カラント推シ余ハ東海岸ノアイヌヲ檢血スルコトニ決意セルナリ。依ツテ余ハ大正十四年夏樺太東海岸ナ

樺太アイヌ族血液分類表

検査人員	血液型		總數	男	女
	O型	I型			
二〇五名	七六名	37.1	七八名	二五名	五一名
					40.2
五〇名	一九名	24.4	一九名	二五名	三一名
					24.3
六七名	三一名	32.7	三一名	三六名	九名
					7.2
一二名	三名	5.8	三名	九名	7.2

ルアイヌ部落、白濱ニ於テ一八〇名、附近相濱ニテ九名、内淵ニテ一六名、都合全部ニテ二〇五名ノ比較的内地人ト混血ナキモノニ就テ血液ヲ検査セルニ次ノ如キ結果ヲ得タリ。  
コノ検査ノ結果ニヨレバ、樺太アイヌハ一型(O型)最モ多ク三七・二%ヲ占メ、三型(B型)コレニ次ギ三二・七%ヲ、二型(A型)ハ二四・四%ニテ第三位ヲ占メ、四型(AB型)最モ

$$\frac{A\% + AB\%}{B\% + AB\%} = 0.78 \quad (\text{Race-index})$$

原著 岸ハ樺太土人アイヌ、ギリヤーク及ビオロツコ族ノ生物化學的人種係數ニ就テ

一八八

少ナク五八%ヲ示スノミナリ、生物化學的比率 Racial-Index ハ、〇・七八ニテ、ヒルシュフェルド氏ノ亞細亞、亞弗利加型ニ屬シ、オツテンベルグ氏ノ分類ニ從ヘバ



亞型」ニ入ルベキモノトス。

次ニ榮濱ヨリ汽船ニ乗ジ敷香ニ渡リ、幌内川ノ沿岸ニ於ケル、ギリヤーク、オロツコ兩族ニ就テ血液検査ヲ施行セリ、ギリヤークハ前述セルガ如クアイヌト同ジク、人種學上ノ位置未定ノ種族ニシテ、黑流江沿岸、露領樺太及ビ吾領土南樺太ニ於テハ僅カニ幌内川ノ沿岸ニ住居スルノミニシテ、黑流江沿岸ニ住ムギリヤークハ露西亞人トノ混淆ニヨリテ其ノ混血ノ度ハ樺太領ニ於ケルモノヨリモ甚ダシト云ハレ、幌内川沿岸ノギリヤークハ露人トノ混血ノ度最少ナク唯アイヌ、オロツコトノ混血ヲ疑ハル、ノミニシテ、ギリヤークノ研究ハ露領ニ於ケルヨリモ吾領土ギリヤークノ方適當ナラント思慮セラル、ナリ。余ハ幌内川沿岸ニ於テ、ギリヤーク六二名内男三五名、女二七名、オロツコ八九名内男四五名、女四四名ヲ檢シ次ノ如キ結果ヲ得タリ。

ギリヤーク族血液分類表

検査人員	血液型				總數
	O型	I	A型	II	
男	一四名	40.0	一二名	34.3	二七名
女	一七名	63.0	五名	18.5	二七名
總數	三一一名	50.0	一七名	27.4	六二名
			九名	14.5	
			七名	20.0	
			二名	5.7	
			三名	11.1	

オロツコ族血液分類表

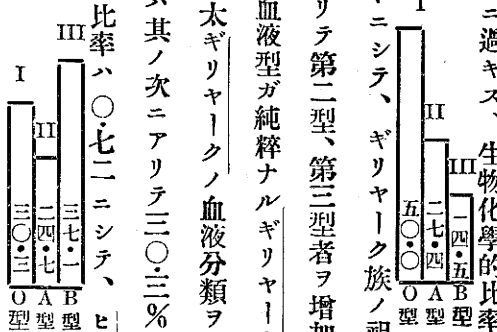
検査人員	血液型				總數
	O型	I	A型	II	
男	一六名	35.6	一二名	26.7	四四名
女	一一名	25.0	一〇名	22.7	四四名
總數	二七名	30.3	二二名	24.7	八九名
			三三名	37.1	
			一五名	33.3	
			二名	4.4	
			五名	11.3	

$$\frac{A\%+AB\%}{B\%+AB\%} = 1.57 \quad (\text{Racial-index})$$

$$\frac{A\%+AB\%}{B\%+AB\%} = 0.72 \quad (\text{Racial-index})$$

以上検査ノ結果ヲ見レバ、ギリヤークハ一型(O型)最モ多ク五〇%ヲ占メ次ニ二型(A型)二七・四%ヲ示シ、三型

(B型)ニ至リ一四・五%ニ減ジ、四型(AB型)ハ僅カニ八・〇%タルニ過ギズ、生物化學的比率ハ一・五七ニシテ、ヒルシユフェルド氏ノ中間型ニ屬シ、オツテンベルグ氏ノ分類ニヨレバ



類似ス、然シ乍ラ此際注目スベキハ、第一型ガ五〇%ヲ占ムルコトニシテ、ギリヤーク族ノ祖先ハ第一型ニ屬スルモノガ、大部分ヲ占メ、露西亞人、アイヌ、オロツコ人等トノ混合ニヨリテ第二型、第三型者ヲ増加シ來リタルモノニ非ザルヤヲ疑ハシムル所ニシテ、ギリヤークノ起原ヲ論ズル際ニハコノ血液型ガ純粹ナルギリヤーク族血液型ヲ示スモノナリヤ否ヤハ大ニ顧慮スベキ點ナラント思惟スルモ、今日ハ現在ノ樺太ギリヤークノ血液分類ヲ報告スルニ止メ置クベシ。オロツコハ第三型(B型)最モ多ク三七・二%ヲ占メ、一型(O型)ハ其ノ次ニアリテ三〇・三%ヲ示シ、二型(A型)ハ二四・七%ニテ、四型(AB型)最モ少ナク七・八%ナリ。生物化學的比率ハ〇・七二ニシテ、ヒルシユフェルド氏ニヨレバ、亞細亞、亞弗利加型ニシテ、オツテンベルグ氏分類法ニテハ

型ニ屬スルモノトス。

### 第三章 樺太土人ニ對スル人種學的卑見

人類ノ起原ト云フ問題ハ東西古今ノ學者ニヨリ盛ニ研究セラレタル所ナルモ或ル學者ハ數百萬年ナリト言ヒ、或ハ數億年ナリト論ジ只想像憶測ヲ逞ウスルニ過ギズ、カクノ如ク過去長年月ヲ經過シタル人類ヲ、各種族ニ類別セントスルコトハ極メテ至難ノコトニシテ、有名ナルゴビノーハ「人類ハ過去數千萬年間ニ互ニ混血シテ今ヤ確然タル區別ハナシ得ザルモノニシテ、各民族ニヨリテ混成セラレタル唯一ノ人類ト云フ雜種ヲ見ルノミ」ト言ヒ、分類學者ノ元祖トモ云フベキアリストートルモ亦嘆ジテ曰ク「吾人ハ人類ヲ類別セントスルコトノ至難ナルハ勿論ニシテ時ニハ男女ノ區別スラ判然タラシムルニ困難ナルニ屢々遭遇スルニ非ラズヤ」ト又ヒユツペシユライデンハ人類ノ種族分類ノ困難ヲ自覺シ、全人類ヲ大別シテ自然民族 *Naturnölker* ト文化民族 *Kulturvölker* トニ分チ、獨逸ノ政治家ビスマー



クハ人種學者ノ努力ヲ冷笑シテ全世界ノ人類ハ獨逸帝國ノ朋友ト獨逸帝國ノ敵トニ二分シ得ルノミト云ハシメタル程ナリ。故ニ今日ノ分類モ只比較的類似點ヲ見出スニ過ギズシテ絕對的分類ハナシ能ハザルモノナルベク、コノ比較的人種別モ今後各學者ノ精細ナル研究ニ待ツ所大ナルモノアルベシト信ズ。

吾國太古ノ歴史ハ邈トシテ其ノ事實ヲ知ルヲ得ズ、況ンヤ吾國極北ノ領土樺太上古史ノ研究調査完全ナラザルハ勿論ナリ、殊ニ人種學ニ關スル研究ハ、ソレニ必要ナル文獻ニ乏シク、上古中世ノ史實亦明カナラズ、恰モ雲霞ヲ透シテ下界ノ真相ヲ究メントスルガ如キ感ナキニ非ザルベシ。現今幾多ノ學者ガ土器石器等ノ考古學上ヨリ或ハ宗教、風俗、習慣上ヨリ又ハ言語學ヨリ解剖學ヨリ、地理歴史傳説ヨリト、各方面ヨリノ研究ノ歩ハ進メラレタルモ、各々専門ニヨリテ其ノ見ル所ヲ異ニシ、考ヘ方ニ差ヲ生ジ遺憾乍ラ群盲ノ象ヲ評スルガ如キ誤謬ノ點モ全ク無シト斷言シ能ハザルノ狀態ニアリ。コノ時ニ當リ未ダ完全ノ域ニ達セズト雖モ、血清學的ノ研究ガ世界各地ニ漲リ來レル事實ハ注目ニ價スベシ。

### 一、アイヌ人種

アイヌ族ノ人種學的位置ニ關シテハ、從來内外ノ諸學者間ニ種々ノ學說アリテ、グレー氏ハセミチツクナリトシ、ベッセル氏ハネグリトーナリト唱ヘ、ビビアン・ド・セイーン・マルタン氏ハアイヌノ本源地ハスマトラヨリフィリッピンニ亘レル其ノ附近ノ諸島ナリト論ジ、シュレンク、デーニッツ氏等ハアイヌノ起原ハアムール河附近ニアリ即チ大陸說ナルモノヲ稱ヘ、フロモリ、シーボルト氏等ハ歐羅巴白人種ナリト主張シ、カートル・ファージハカウカシアン人種ニシテ、スマトラ島ニ住メルクブス、印度ニ住スルトダト同種族ニ屬スルモノト斷ジ、有名ナルベルツ、タルネツキー氏等モアイヌハカウカシアン人種ニシテ露西亞ノ農夫ト甚ダ酷似スト述べ、吾國ノ鳥居博士モ現在民族中アイヌニ類セルモノハ印度ノトダ、錫蘭ノヴェダ及ビ嘗テ彼斯ニ居タルクシッドモ同一種族ト見做スモノナラント論ジタリ。

近時ニューギニア島ヨリ發掘サレタル、石器時代ノ遺物ガアイヌノソレト類似セル所ヨリ英國ノジョーイス氏等ハ該石器ハアイヌノ祖先ト密接ナル關係アルモノナラント論述シタリ。

茲ニ吾人ノ注意スベキコトハアイヌニ鯨面文身ノ風習アルコト及ビ太古時代ニ喰人ノ風アリシト云フコトナリ、コレハエドワード・モールズノ著書ニモ見エ又アイヌノ傳説ノ研究ヲナシタルバチュラ氏等モ唱ヘ居ル所ナリ又文身ノ風ハ吾國古史ニ記載少ナカラズ例令『日本書紀』ニ「東夷之中有日高見國其國人男女竝推結文身云々」又『景行紀』ニ曰ク蝦夷ハ刻身被髮ニシテ全身毛ヲ生ス顔及兩手ニハ文彩ヲ點ストアリ、カクノ如クアイヌハ馬來諸島或ハ南洋諸島土人ノ如キ風習アリシヲ思ヘバ或ハ南方ヨリ來レルニ非ザルヤヲ疑ハザルヲ得ズ。

又アイヌ式土器(繩紋土器)ガ南部九州、關東地方、東北地方ニ盛ニ發見セラレ又畿内、中國方面ニハ至ツテ少ナク只彌生式土器ニ混ジテ發見セラレ、北九州ニハ全ク未ダ發見サレザル事實ヨリ見ルモ、南部九州ニ太古上陸シ、其處ニ先住セル彌生式民族ト雜居セルモ遂ニ壓服セラレ、再ビ航シテ當時荒野タリシ關東方面ニ上陸蕃殖セルモノニ非ザルヤトモ推定セラル、所ニシテベルツ氏ノ小倉師團ニ於ケル沖繩大島ノ兵士ニツキテノ研究、又デーデルライン氏等ノ研究ト相俟ツテ南方ヨリ北進セルモノトスル説ヲ有力ナラシムルモノト信ズ。

吾國ノ古史ニハアイヌヲ蝦夷「あひす」、「あみじ」、「あぞ」、等ト稱シ、アイヌトハ日本人ノ後世ニ至リテ附シタル名稱ナラント云フ。彼等アイヌ族元來ノ種族名稱ハ「カイ」ト稱スルモノラシク、吾國史ガ蝦夷ト云フ漢字ヲ以テソノ發音ニ借字セルモノナリト傳ヘラル。カク古史ヲ繙ク時ハ吾大和民族ト彼等蝦夷トノ間殆ド千年ノ間、爭鬭ノ續キタルヲ見ルベシ、紀元一一〇年景行天皇ノ御時皇子日本武尊蝦夷ヲ討チ平ゲラレタルハ周知ノ事實ニシテ紀元三六五年仁德天皇、時ノ將軍ヲ使シ、紀元六三七年ニハ舒明天皇將軍上毛野形名ニ命ジ征セシメ、ソレヨリ二〇年ヲ經テ齊明天皇ノ御宇阿部比羅夫水軍ヲ率ヒテ蝦夷地ニ奮戰セルハヨク人口ニ膾炙セラル、史實ナリ、其後亦數代ノ天皇當時ノ將軍ヲ使ハシ、紀元七八九年桓武天皇ニ至リテ阪上田村麿ハ陸奥ノ多賀城ニ根據ヲ置キ、命ヲ奉ジテ大舉ヨク之ヲ討

チ、其後ニ至リテモアイヌハ屢々逆キタルコトハ明カニ傳ヘラル、所ナリ。カクノ如ク彼等ハ大和民族トノ爭鬭ニ破レ征服セラレ遂ニ北海道、千島、樺太ニ掃蕩龍居セシメラレタルモノナルベク、年ト共ニ衰滅ニ近ヅキ、今ヤ將ニ絶エナントシテ僅カニ其ノ種ヲ保チ居ルニ過ギズ。

北海道アイヌノ全數ハ一萬五千九百四十一名(大正十年度)其内三割三分ハ日高國、二割二分膽振國、一割弱ハ十勝國、九分弱ハ釧路國ニ住シ、殊ニ沙流川沿岸及ビ鶴川沿岸ニ稠密ナリト云フ、樺太アイヌハ大正十四年七月ノ調査ニ依レバ次ノ如シ(樺太廳)。

管轄支廳	戸數	男	女	計
豐原	八一	一九三	一三五	三二八
大泊	二六	七五	六三	一三八
眞岡	九七	一九八	二一五	四一三
泊居	七九	一六九	一七一	三四〇
敷香	二九	六三	七二	一三五
元泊	一二	三五	一九	五四
本斗	一六	三九	四四	八三
計	三四〇	七七二	七一九	一五一一

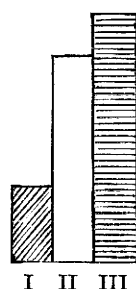
往昔ハ樺太ノ北端ニ至ルマデ全島ニ亘リ、居住シタリト云フ傳説ヲ聞クモ、現今ハ南樺太ニノミ見ラレ北樺太ニ發見スルヲ得ズ。

大正八年ヨリ十年ニ亘ル三ケ年間ニ、保護政策上集團セシムル必要ヲ認メ東海岸ハ富内、白濱、樺保、新間及ビ多來加ノ五部落ニ西海岸ハ、多蘭泊、登富津、智來、小茂ノ四ケ所ニ集合セシメタルモ、鶴城管内ノミハ昔日ト同様散在ノ狀態

ニアリ。

前述ノ如ク、アイヌ族ノ人種系統、根元ニ對シテハ學者間ノ說區々トシテ一定スル所ナシ。然ルニ大正十三年八月仙台ノ二宮氏ハ北海道日高國沙流川沿岸ノアイヌ二〇五名ニツキ血液検査ヲ行ヒ、同様血球凝集反應ニヨリテ四類ニ分類シ第一屬一三七、第二屬三二七、第三屬三四五、第四屬一九〇ノ「バーセンテージ」ヲ示シ、人種係數〇九八ヲ得タリ。同氏ハコノ血液分布ノ狀態ヨリ見テ、即チアイヌ族ノ血液ハ第三型最モ多ク、第二型コレニ次ギ第一型ハ第三位ニ位スルガ故ニ

北海道アイヌノ血液分布ノ割合ノ圖示。

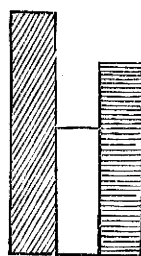


ハオツテンベルグノ分類圖ニ照合シテ如何ナル分類ニモ入ラザル型ナリ

氏ハアイヌノ血液型ハ歐洲型ニモ似ズ、南洋型ニモ非ラズ、日本人、朝鮮人、支那人トモ相違シ、小金井博士ノ解剖學的研究ノ基礎ノ上ニ立テラレタル、アイヌ族ハ人種の孤島 *Rassen-Insel* ヲ形成スト云フ說ヲ尊重セザルベカラズト説カレタリ。

余モ今回樺太アイヌノ血液偶然ニモ二宮氏ト同人員二〇五名ヲ檢血シ前掲ノ如キ結果ヲ得、而シテソノ人種係數〇・七八ヲ得タリ、コノ係數ニ於テハ二人ノ成績大差ナケレドモ血液分布ノ狀ハ聊カ相違アル結果ヲ見ルニ至レリ。

余ノ成績ニヨルニアイヌノ血液分布型ハオツテンベルグ氏ニ從ヘバ、歐洲型ニモ非ラズ、印度滿洲型ニモ似ズ、日本人、支那人、朝鮮人、西比利亞人ニモ相違シ、只亞弗利加、南亞細亞型ニ殆ド一致スルコト、ナリタリ。



(オツテンベルク氏分類圖参照)

前述ノ如クアイヌニ對スル種々ナル學說アルモアイヌノ蒙古人種ニ屬セザルコトハ多クノ學者ノ認ムル所ニシテ、現在ハシユレンクノ大陸說ト、カートル、ファージノコーカシアン說ト、ジョイス氏ノ南太平洋諸島說トハ有力ナランモ、コレヲ血清學上ヨリ考察スル時ハ滿洲人トアイヌ族トノ血液ノ狀ハ相一致スルコトナク、又オーストラリヤ土人、フィリッピン土人等モ全ク相異スルモノニシテ、大陸說ト太平洋諸島說ハ、血清學の見地ヨリ賛スルヲ得ズ。余ノ研究ノ結果ニヨレバ、樺太アイヌノ血液型ハスマトラ、ジャバ、マダガスカル等ノ住民即チ南亞細亞型ニ一致スル

コトハ誠ニ興味アルコトニシテ、今日ノ程度ニ於テハ血液型ガ一致スルガ故ニ同系統ノ人種ナリト推斷シ得ザルハ勿論ナレドモ、從來アイヌノ人種學的位置ニ關シ、人種學者、考古學者等ニヨリテ唱導セラレタル諸説ト參照シテ、余ノ研究成績ハ、カートル、フアージ、佛ノベルノー、英ノカーン、露ノタルネツキー、吾國ノ鳥居博士等ノコーカシアン説、即チアイヌハ白人種ナリトノ説ニ符合スルモノニシテ、アイヌノ人種學的位置ニ對シテ一定ノ暗示ヲ與フルモノト信ズ。

次ニ人種係數ヨリ見レバ北海道アイヌト樺太アイヌトハ殆ド大差ナク何レモ一以下ナルモ北海道アイヌガ、樺太ノソレヨリモ係數ノ高キヲ示シオルハ、北海道アイヌハ吾々日本人トノ血液混淆ノ度、樺太アイヌヨリモ濃厚ナルヲ示スモノト推測セラル、所ニシテ、前述ノ如ク古ヨリ吾日本民族トアイヌ即チ蝦夷トノ間ニ長年月ニ亘リソノ衝突、爭鬪絶エ間ナカリシ事ハ、其ノ半面ニ於テ相當ノ交通接觸ノ盛ナリシコトヲ窺ヒ得ラルベク、吾國有史以後ニ於テモ、吾大和民族トアイヌ間ノ血液ノ混淆ハ相當行ハレタルモノト察スルニ難カラズ。殊ニ北海道ハ樺太ニ比シ吾大和民族昔ヨリ住居セル地ナルヲ以テ、樺太ノアイヌヨリソノ血液混淆ノ度濃厚ナルコトモ因ナキニ非ザルベシト憶測セラル。要之ニ兩者ノ相違ハ現住北海道アイヌト樺太アイヌトノ純粹度ノ差ニ基クモノナラント愚考ス。

## 二、ギリヤーク人種

ギリヤーク人種ハ黑龍江畔マリンスク附近ヨリ江ヲ下リテ其ノ附近ト、樺太島ニ住居スル民族ニシテ、之ヲ分チテ黑龍江ギリヤークト樺太ギリヤークトノ二派トス、樺太ギリヤークハ露領ニ多ク、ツイミ河附近及ビ東海岸、西海岸ニ住シ、吾領土ニテハ敷香支廳管内ノ幌内川沿岸ニ住ス、大正十四年七月ノ樺太廳ノ調査ニヨレバ吾領土ニアルモノ僅カニ女三七名、男四〇名ニシテ總數七七名ニ過ギズ、一九二二年出版バトカノフ氏「西比利亞土人人口統計報告」ニヨレバ、黑龍江ギリヤークハ人口二六七九人(男一四三七、女二二四二)樺太全島ニテ人口一九七一人(男一一一八、女八五三)ナリ。一九一四年發行ノ亞細亞露西亞「ニヨレバ彼等ハ一八九七年ニハ人口四六四九人、更ニ一九一一年ニ

ハ四一八二人ト記述セリ。

樺太ギリヤークハ元黑龍江下流ヨリ或年代ニ渡島セルハ察スルニ難カラザル所ニシテ、最初ハ北樺太ニ上陸シ、其處ニ占居セルモノガ漸次南下シテ吾領幌内川附近マデ來リタルモノナルベシ、現ニ幌内川附近ニ住スルモノ、話ニ依レバ北方ヨリ同所ニ彼等ノ祖父母時代ニ來レルモノナリト云フ。

ギリヤーク族ノ世ニ知ラレタルハ、露國ノ西比利亞開拓即チ女皇カタリナノ雄圖ニヨルモノ大ナルベク又イバン四世ノ時モ盛ナル侵略的探見ニ從事セルニ起因スベシ、十六世紀末ヨリ盛ニコサツクヲ利用シテ東方侵略ヲ開始シ一六五九年ニボルチャコフハコサツクヲ率ヒ黑龍江一帯ノ地ヲ探見シテ歸リギリヤーク族ノアルコトヲ紹介シタルモノナリト云フ。

更ニ彼等ヲ學會ニ報告セルハ一七〇六年アムステルダムノウキツエン氏ニシテ續イテ、ラペルーズ(一七八七年)、クルゼンステルン(一八〇五年)氏等ニヨリテ發表セラレタリキ、尙露國人種學者トシテ有名ナルシュレンク氏ハ一八五〇年頃ニ盛ニギリヤーク族ノ研究探見ヲナシタリ。

吾國ニ於テハ文化五年松前奉行支配下松田傳十郎及ビ間宮林藏氏等樺太島ニ到リ、ヌメレングル夷ト稱シテ、吾國ニ紹介セルハ東韃紀行(高橋作左衛門著)ニ見エ、又蝦夷年代記ヲ記キテ有名ナル松浦竹四郎氏ハ安政三年ニ樺太ヲ探見シ又岡本、近藤氏ニヨリ何レモヌメレングル夷トシテ知ラレタリキ。

ギリヤーク語ニテ人ノコトヲニクブント云フ、故ニギリヤーク族ノコトヲニクブン族トモ稱ス、サレド余ノ訪問セル敷香方面ニ住居セルギリヤークハ自身ギリヤークト言ヒ他種族オロツコ等モギリヤークト稱スルヲ聞キタリ。ギリヤークハ身長吾々ト大差ナク頭髮ハ直毛ニシテ黑色ヲ呈シ、顔面扁平ニシテ、顴骨少シク高く、眼ハ細ク其ノ位置ハ斜傾シ外眥ノ釣り上ルヲ特長トス、顔色一般ニ黃色ニシテ髭毛相當深ク、鼻低ク口大ナリ。(附圖參照)

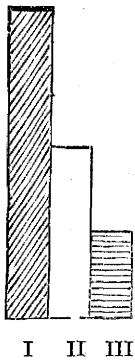
ギリヤークハ、オロツコ、キーレン、サンター等ノ人種ニ比シ最モ有望ナル民族ラシク寡言ニシテ沈着、萬事ニ計

畫的ナリ、オロツコ人ハ文字ヲ學ブハ亡國ノ源ナリ、海外ニ出スレバ死ヲ免ル、能ハズ等ト迷信スルモ、ギリヤークノ少壯者中ニハ日本假名文字ヲ解スルモノ數名アリト云フ。彼等ハ常ニオロツコ族ヲ己レノ競爭者ト目シ之ニ優勝者タラントスルモ、人口ノ點ニ於テ容易ニ及バザルヲ自覺シ、結婚政策ヲトリ、キーレン、サンター族等ト盛ニ離婚シ彼等ヲ同化吸收セン事ニ努メ、又オロツコ人ト結婚スルコトスラ許スニ至レリ。

ギリヤークハ元來親族間ノ結婚ハ行ハザルモノニシテ、今日他民族ニ比シ、比較的身體強壯、頭腦明晰ナルハ、カ、ル點ニモ因スルモノナルベシ。(余ハ約二〇名ノギリヤークノ診察投藥ニ應ジタルモ、アイヌ族ノ肺結核、先天性微毒、トラホーム等ノ疾病多數ナルニ比シ、極メテ健康ノ狀態ニアリテ肺結核一名、大腸カタル二名ヲ診タルノミナリキ)。

ギリヤークヲ人種學的ニ如何ニ分類シ、如何ナル系統ニ置クベキカニ就キテハ學者間ニ多數ノ說ヲ聞ク。

グルーベ博士ガ其ノ著ギリヤーク言語集中ニ曰ク「現今世ニ知ラレタル何等ノ語系トモ無關係ノモノニシテ一ツノ言語島ヲ構成スト。シュレンク博士ハ太古亞細亞語ニ入レ、尙シュレンク氏ハ雜種混合ノ人種ト考ヘ即チツングース、モンゴル族ニ類スルモノアリ、又アイヌト類スルモノアリ又ソレ等ノ中間ニ位スルモノアリテ人種ノ位置ノ不明ナルヨリ古西比利亞族ナル名稱ヲ附シタルモノナルベシ、カクノ如ク先人ノ研究ニヨレバ、ギリヤークハ人種學上孤立ノ位置ニアルモノトス、然ルニ今回余ノ血液學的ノ研究ニヨレバ、各血液ノ分布ノ狀及ビ人種係數ハ中間型ニ屬シ圖ニ示スニ左ノ如シ。



(オツテンベルグ氏分類圖參照)

三、オロツコ人種

露西亞人等ハオロチヨン Orochon ト云フモ吾領幌内川沿岸ニ住スルモノハ自身オロツコト言ヒ、ギリヤーク人モ亦オロツコト呼ブ。自身ハオロツコト云ハズシテキツタト云フト稱フル人モアレド、余ハカ、ルコトヲ聞カズ、彼等自身オロツコト云フヲ屢々耳ニセル所ナリ。

大正十四年樺太廳ノ調査ニ依レバ、吾領ニ住スル、オロツコハ、男一一一人、女一〇三人、計二一四人ニ過ギズ、一九一二年バトカノフ氏「亞比利亞土人統計報告」ニ依レバ男二三六、女二〇九(チモウスク方面)、コルサコウフ附近ニハ男一五九人、女一四五人ナリシト云フ。

又マツクスフンケ氏ノ報告ニハ人口八〇〇ナリトアリ、ギリヤークトオロツコトノ區別ハ一見明カナリ、オロツコ人ハ其ノ色ギリヤークヨリ白ク赤味ヲ帶ビ、毛髮亦赤褐色ナリ、顔面ハギリヤークヨリモ著シク扁平ナルモノ多ク(附圖、寫眞參照)眼ハ細ク、斜傾ノ度ハギリヤークヨリモ小ナリ、身長ハ稍々短ナルモノ多キガ如シ。

オロツコ族ハツングース族ナリト云フ説ハ、言語學上ヨリモ人種學上ヨリモ目下一般ニ肯定セラル、所ニシテ、サンター(山丹)、キーレン(奇鄰)等モ共ニツングース族ナリト稱セラル。オロツコノ大陸ヨリ樺太ニ夏ハ獨木船ニ棹ヲサシ、冬ハ氷上犬橈ヲ走ラセテ渡來占居セルコトハ衆人ノ認ムル所ニシテ、ギリヤーク族ヨリ少シク遅レテ渡來セルモノ、如ク、始メオロツコハ黑龍江ノ對岸ニ上陸シ漸次南進シテ、當時既ニ樺太ニ住居シタリシアイス族ト盛ニ衝突セルコトアリテ殊ニタランコタン、多來加附近ニテ交戦セルコトハ傳説トシテモ詳シク傳ヘラル、所トス。順應性ニ富ムギリヤークハ早くモ新渡來者タルオロツコト親和セル爲カ、ギリヤークト衝突セシト云フコトヲ聞カズ。オロツコ人ハギリヤークノ勤勉ナルニ反シ、至ツテ怠惰放縱ニシテ、喫煙飲酒ニ耽リ、勞働ノ尊ブベク、産業ハ勞働ニ基クコトヲ悟ラズ、内地人ニテモ終日勞働スル者ヲ劣等ナル人種ナルカノ如ク考ヘ、徒ラニ坐食ヲ事トシ、惰民ヲ貪ルコトヲ以テ名譽トス。又彼等ハギリヤークニ反シ、技藝學術ニ志スモノ無ク、農耕ニ從事スルコトナク、依賴心強ク蓄財ノ精神ニ缺クルモノ多ク、爲ニ夏季收入ノ多キ時ニ得タル金ハ多ク飲酒喫煙ニ費シ、冬季缺乏ノ襲フコトヲ思ハズ、嚴寒



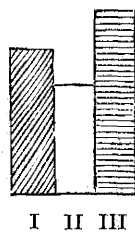
數日絶食スルモノアルモ稀ナラズト云フ。

北樺太ニ住居スルモノハ多ク露教トナリ又固有シヤマン教ヲ信ズルモノアリト聞クモ、吾敷香支廳管内ニアルモノハ、盛ニ木像、御幣ヲ造リ之ヲ崇拜シテ止マズ。(寫眞參照)

一度病ニオカサル、時ハ巫人ヲ呼ビ來リ大イニ大鼓ヲ叩キ鐘ヲ鳴ラシ祈禱ヲナスヲ見レバ、或ハシヤマン教トハカル宗教ナランカ。

オロツコニ就キテハ一九〇六年、ヨヘルズンブロードスキ夫人ハ「獨逸人類學雜誌」ニ曰クオロツコハツングース族ニ入ルベキモノナレド、身長ノ低キハ注意ニ價スト言ヒタレネツキー氏ハ彼等ノ頭蓋骨ニ就テ論文ヲ出シ又吾國ノ小金井博士モ彼等ノ頭蓋骨ニ關スル研究ヲ出サレ、諸學者研究ノ結果總テ彼等ハ體形狀ツングース族ノ特徴ヲ具備スルモノナリトス。

余ノ血液學的調査ハ前掲ノ結果ナルモ、ソノ血液分布ノ



狀ハオツテンベルグ氏ニヨレバ、滿洲、

印度型ニ屬ス、未ダ現蒙古人ノ血液ノ研究行ハレズ。ツングース族ハ如何ナル血液型ヲ有スルヤ斷定出來難キモ、オロツコ人ハ滿洲即チ奉天、及ビ北部支那ト、其ノ血液型一致スルハ極メテ重大ナル意義アルモノト信ズ。

樺太島出張ニ當リ學長須藤先生、及ビ古畑先生ヨリ賜リタル御後援ト御指導ヲ謹ミテ茲ニ鳴謝シコノ一文ヲ以テ復命ノ一端トナス。

## 文 獻

- 1) Von Dungern, E. und Hirschfeld, L., Über Nachweis und Vererbung biochemischer Strukturen I Z. f. Immunitätsf. orig. 1910 IV. 531.
- 2) Von Dungern, E. und Hirschfeld, L., Über Vererbung gruppenspezifischer Strukturen des Blutes Z. f. Immunitätsf. orig. 1910 VI. 284.

圖 一 第

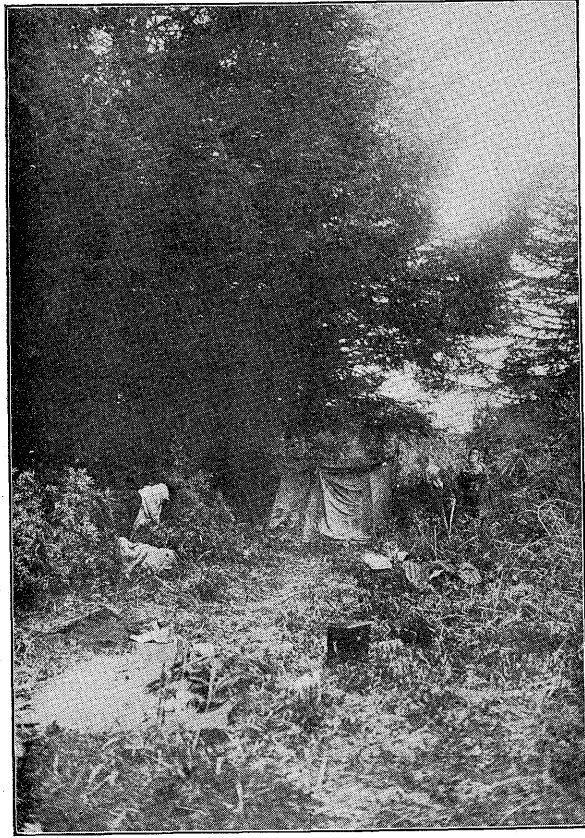


圖 三 第



圖 二 第



第四圖



第五圖



第六圖



- 3) Von Dungern, E, und Hirschfeld, L, über Gruppen spezifischen Strukturen des Blutes. III. Z. f. Immunitätsf. Orig. 1911. VIII. 526.
- 4) Verzar, F, und Weszecky O, Biochem. Ztschr. 126:33. 1921-1922.
- 5) Jansky, Jan Haematologische studie u. psycholikt. sborek Kliniky. 1907. IV. 297.
- 6) Ottenberg, Reuben, Medical application of human blood grouping. J. of. Am. med. Ass. 77. 1922.
- 7) Ottenberg, Reuben, A Classification of Human Race Based on Geographic Distribution of the Blood Groups. May, 9. 1925. vol. 84.
- 8) Hirschfeld, H, and Hirschfeld, L, Serological difference between the blood of different races. Lancet Oct. 1919.
- 9) 岸孝義氏「同種血球凝集反應ニヨル人血液四型ノ分類及北陸地方ノ人種係數ニ就テ、金澤醫科大學十金會雜誌大正十四年九月發行。
- 10) 二宮嘉重氏「日本人及ビアイヌ人種ノ血液ニ於ケル同種血球凝集試驗」東京醫事新誌大正十四年六月六日第二四二三號 一二四一頁。
- 11) 中目覺氏 土人教化論、大正七年十月二十八日發行。
- 12) 樺太廳 樺太要覽 大正十四年七月三十日發行。
- 13) 樺太廳 樺太沿革史、大正十四年八月五日發行。
- 14) 島居龍三氏 人類學上ヨリ見タル極東亞細亞。
- 15) 清野謙治氏 日本人ノ研究。

## 附 圖 說 明

### 第一圖

オロツコ族ノ天幕生活ノ狀

### 第二圖

オロツコノ女、彼等ガ常ニ崇拜スル偶像ヲ抱キオル様ナリ

### 第三圖

オロツコノ娘、手ニ持チタルハ鮭

### 第四圖

オロツコノ風俗

### 第五圖

アイヌノ老人

### 第六圖

ギリヤークノ女ト小兒等